

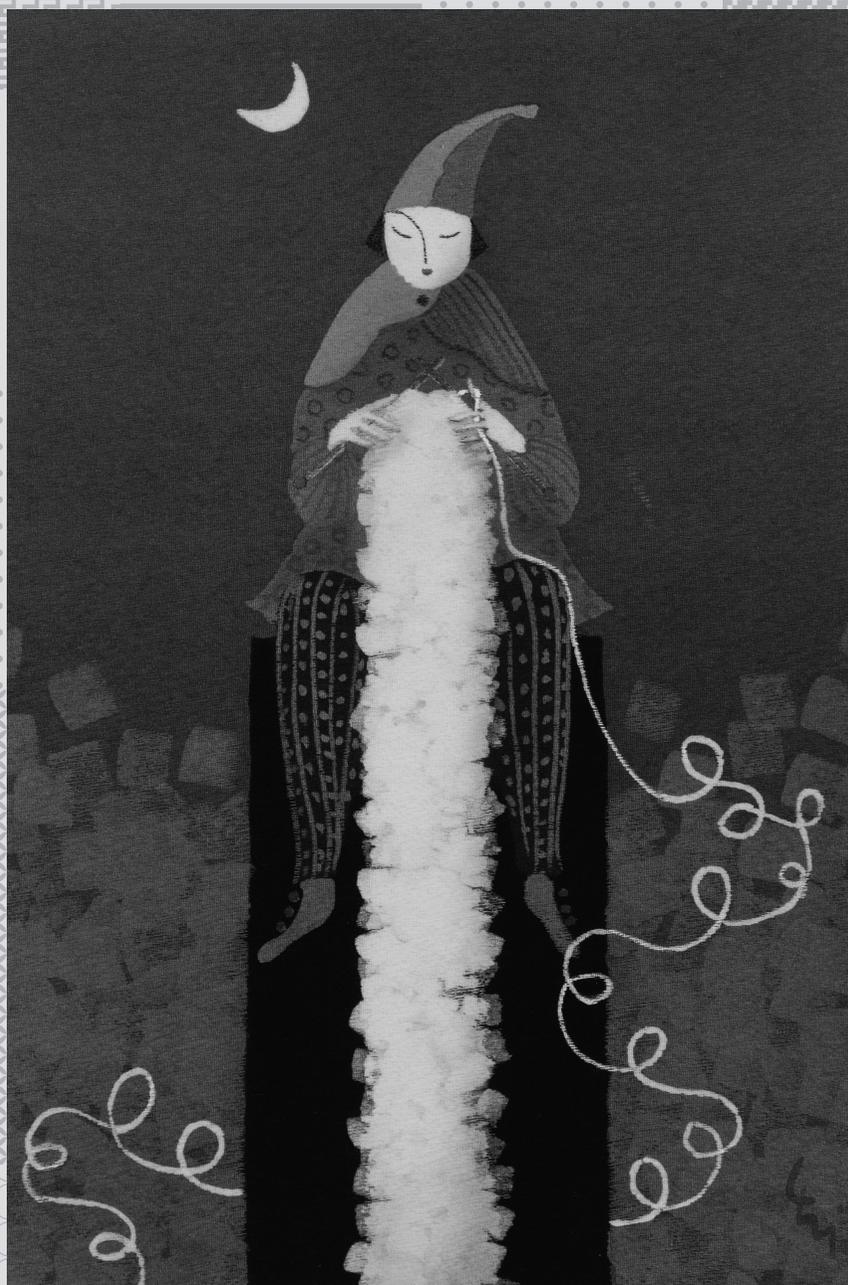
富山大学医学部同窓会報

2015. 第24号



富山大学医学部同窓会報

2015. 第24号



染色工芸家。太平洋美術展・新人賞(1982年)、松吉賞(1984年)、太平洋美術会賞(1998年)受賞。各地工芸画廊をはじめ、日本橋高島屋(東京)、現代工芸藤野屋(栃木県佐野市)などで個展を開催している。また、1994年とちぎの美術女流作家100人展にも選ばれる。1999年銀座松屋にて個展を開く。いずれも好評を博す。栃木[蔵の街]音楽祭協力委員として地域文化活動にも貢献。縁あって本同窓会誌の表紙絵を1997年より依頼している。栃木県岩舟町在住。

22. <退官寄稿>
退官に寄せて 内科学第二講座 井上 博
23. <定年退官寄稿>
退官にあたって 腎泌尿器科学講座 布施 秀樹
24. 卒業生だより
卒業生インタビュー企画 (大島 博先生)
アンケート企画
特集!九州県人会
32. <訃報>
片山 喬先生のご逝去を悼む 腎泌尿器科学講座 布施 秀樹
腎泌尿器科学講座 藤内 靖喜 (医学科 平成3年卒)
34. 片山 喬先生を偲んで 風間 泰蔵 (医学科 昭和57年卒)
35. 宮脇利雄先生を偲んで 小児科 足立 雄一 (医学科 昭和57年卒)
36. 杉森 隆先生を偲んで 神谷 哲 (医学科 昭和60年卒)
In memory of Dr. Takashi Sugimori
ハーバード大学 マサチューセッツ総合病院 Amin Arnaout
37. 第7回富山大学ホームカミングデープログラム
38. 第66回 西日本医科学生総合体育大会
39. 平成26年度富山大学附属病院関連病院長懇談会議事要旨
40. 平成26年度第33回富山大学医学部同窓会総会 議事録
44. 職掌分担・評議員一覧
46. 平成25年度会計報告
48. 平成25年行事報告・平成26年行事・平成27年行事予定
49. 医学部人事消息
51. 編集後記
53. 卒業生からのメッセージ
55. 富山大学医学部同窓会オンライン名簿利用手順
●会計からのお知らせ



ご挨拶

学長 遠藤 俊郎

医学部同窓会の皆様には、ご健勝ご活躍のこととお慶び申し上げます。

学長および一会員(特別会員)の立場より、皆様へのメッセージと富山大学・国立大学の近況、および最近の教育・医学医療界への若干の思いを書き、ご挨拶といたします。

医学部同窓会は、富山医科薬科大学第1回生が卒業された1982年3月に発足したと記憶しています。皆様が積み上げてこられた伝統と実績に、深甚の敬意を表するとともに、富山大学に対し多くの皆様から様々なご支援を頂いていること、改めて感謝、御礼申し上げます。発足以来30年余を経て、同窓会も世代交代の時を迎えられているようです。昨年2014年10月の総会で、永年にわたり本会を支えてこられた高田先生が会長職を辞され、田淵英一会長および足立雄一理事長の新体制が誕生しました。高田先生本当にご苦労様でした。田淵先生、明るく元気で引き続きご活躍、よろしく願います。そして足立先生、本学卒業生で母校の教授をつとめる先生が同窓会を担当されること、誠にうれしく、素晴らしいこととお祝い申し上げます。同窓会を大いに盛り上げて下さい。

現在世界はこれまでの歴史で経験したことのない速さと広がりを持つ社会・経済変革の時代をむかえています。わが国では、東北大震災・福島原発事故の影響が今も残り、さらに少子高齢化やグローバル化対応など、国家・社会の将来に関わる重要課題が山積しています。安倍政権は「経済再生」を基本政策に、「教育再生」の姿勢も示しながら、国家レベルでの新しい復興、発展計画を進めています。国立大学においても、法人化後10年の節目を迎え、様々な改革への取り組みが求めら

れています。近年その流れは一段と激しさを増し、「国立大学改革実行プラン」「ミッション再定義」「国立大学ガバナンス改革」などの施策が相次いで提言、実行されています。特に「ミッションの再定義」は、文部科学省が全ての大学および学部(学問領域)の歴史と現状を分析・再評価したうえで、各大学に新たな発展と将来展望に向けた対策や改革計画の作成・実践を求めるものです。これに伴い、運営交付金や関連予算配分方式の変更など財務面への影響もあり、我々もその対応に全学をあげて取り組んでいるところです。

このような社会の厳しい状況や将来への不安は、医学・医療分野においても例外ではありません。最近では、若手医師の大学離れ、地域離れ、研究離れ、外科離れなど医師の考え方や生き方が大きく変化し、医療現場ではこれまでとは異なる混乱・課題が生じ、かつ顕著となってきています。また高齢者に対する医療費・社会保障費は年々増加を続け、皆医療保険制度や介護保険制度の今後の在り方は、日本経済の将来をも左右する命題となっています。

教育にせよ、医療にせよ、そこで働く我々は一人一人がその道のプロフェッショナルです。プロフェッショナルには、自身の成果をどのような形で具象化し、歴史の中に残すかが問われています。同時に、自己の専門分野や研究結果のみに埋没するのみでなく、人としての理念・目標を持ち、人類社会への貢献が求められています。また将来を展望するならば、現状を是としこれを守り安住するのではなく、20～30年後の人口減少時代に向けた新たな体制構築・発展にむけ、賢くかつ柔軟に進化を果さねばなりません。己が今果すべき責務は何か、何を為すか、常に真摯に考え、取り組んでいきたいものです。

厳しい時代変化の中、旧来の国立大学・医学部という既成概念にとらわれる事なく、現在の富山大学の取り組みを直視し、忌憚のないご批判、そしてご指導ご支援をお願いしたいと存じます。

同窓会皆様の益々のご発展ご多幸を祈念いたします。



新会長に就任しました

会長 田 渕 英 一（医学科 昭和62年卒）

富山大学医学部同窓会の前身である富山医科薬科大学医学部同窓会が1984年に創立されてから2014年まで、実に30年間も、第一期ご卒業の高田良久先生が初代会長を務めておられました。また、理事長は、第一期ご卒業の宮林千春先生が初代を1996年まで務められ、その後、田渕が二代目を引き継ぎ、暫くは高田会長と二人三脚で本会の主務をこなしてきました。その間、任期制を導入して本会の活性化や理事の負担軽減を図ろうと努力もしてきましたが、昨今の大学同窓の活動は、大学への支援が絡んでくるため多岐にわたり、後任が見つからない状況の中で、これまで同窓会活動を続けて参りました。

本来ならば、もっと早期に会長、理事長を交代するべきところでしたが、2014年より、第一期ご卒業の足立雄一先生が小児科教授に就任されたことも契機となり、第三代理事長が決まり、漸く会長の交代が実現し、現体制となりました。改めて、高田会長のこれまでの様々ご苦勞に対して感謝の意を表したいと思います。

さて、私が学生の頃(30年ほど前になりますか…)は、“新設医科大学”という言葉がもてはやされ、母校もその一つであり、“伝統”という言葉の重みをよく考えさせられてきました。昨今では、学生たちの間でも、それなりの伝統が各所で見られるようになり、嬉しくなることがあります。たと

えば、大学祭では、昔からあるクラブの出店、たこ焼き屋やお好み焼き屋などが継承されていたり、クラブや諸種のクラス委員を通してのCBTや国家試験への対策、チーム医療や在宅医療を考える勉強会といった任意の学年間のつながりがあります。

一方で、私たち先輩が、やはり母校を愛する気持ちがないと、せっかく培った伝統も形骸化してしまい、しいては母校の発展もないと思います。そこで、会員の方々に是非お願いしたいのは、学生(青春)時代に経験した様々な思い出をつくってくれ、私たちが医療人してくれた杉谷キャンパスさらには諸先生方への感謝の気持ちを是非持っていただきたいということです。私も、若い頃、恩師には毎日のように叱咤激励され、辛い思いも少なくありませんが、今では、それらが仕事や生活の中で活かされていますし、よい思い出の一つとなっています。そして、私たち同窓会の理事一同は、この母校愛を支えに活動を続けています。

最後になりますが、富山大学医学部同窓会は、現在20名程度の理事と10名程度の準会員(学生)を中心に活動していますが、我々同窓会のメンバーは、長年お世話になった母校への恩返しのため、同窓会活動を続けています。私も、第二代会長として、初代会長に恥じないよう本会を盛り上げるべく、今まで以上に充実した富山大学医学部同窓会活動および母校の活動を支援していきたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、大学祭やホームカミングデーなどを利用して、是非母校を訪れていただきたく存じます。また、どうか健康には十分ご留意の上、ご活躍いただくとともに、本同窓会への温かいご支援・ご協力を宜しくお願い致します。



新理事長に就任しました

理事長 足立 雄一（医学科 昭和57年卒）

皆さん、こんにちは。この度、伝統ある富山大学医学部同窓会の理事長に田淵前理事長に替わって就任しました足立雄一です。私は昭和57年に富山医科薬科大学の一期生として卒業しました。今まで同窓会の仕事にはあまり関わってきませんでしたが、昨年の秋に小児科学教室の教授に就任したこともあって、この度理事長の任を仰せつかりました。理事長になって改めてわかったことですが、最近の学生さんは同窓会離れが進んでいるようです。学生さんにとっては卒業と同時に医療従事者となって忙しい生活が始まりますし、その後結婚や転勤などで日々の生活を送ることが精一杯で、なかなか自分の母校ということにまで思いを馳せる機会は少ないかもしれません。しかし、自分がこの大学で学び、また青春の大切なひと時を過ごしたことは紛れもない事実です。最近、地方に講演に出かけると「富山(医科薬科)大学の卒業生です」と声をかけて下さる方に出会います。すると、面識が全くない人であっても急に何か懐かしいものを感じ、それぞれの土地でがんばっている話を聞いて嬉しくなります。人にはいろいろなアイデンティティーがあると思いますが、母校もまさしくそのひとつだと思います。

同窓会の役割は大きく分けて二つあると思います。一つは、卒業生の皆さんが母校と、そして卒業生同士とつながりを持てる環境を整えることです。そして、もう一つは母校をさらに発展させるために、在校生や大学への寄付などの活動をすることです。これらの活動を支えているのは、すべて同窓会の会員の皆さんです。今後とも同窓会活動にご理解のうえ、ご協力をお願い申し上げます。

富山大学医療ルネッサンス事業に 寄附金5,000万円を贈呈いたしました

医学部研究棟や附属病院の改修工事が進む中で、文部科学省からの大学支援金が限定的となっている昨今の現状から、富山大学医学部では、下記事業を遂行するために、平成25年8月より「富山大学医療ルネッサンス事業」が開始されました。富山大学医療ルネッサンス事業は、大学職員、附属病院職員、同窓会員、後援会員、企業、個人を対象に寄附金の募集を行うものであり、それを受けて、本富山大学医学部同窓会でも、理事会・総会で熱心な討議が行われ、寄附金5,000万円の贈呈が決議されました。その寄附金贈呈式が平成26年3月21日(金)に、また、富山大学医学部より感謝状贈呈式が平成26年12月16日(火)に執り行われました。

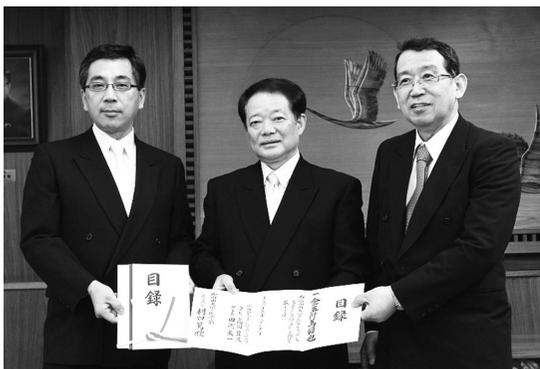
【富山大学医療ルネッサンス事業内容】

- 医学部及び附属病院の教育・研究・診療環境の整備
- 医学部・同大学院の国際交流活動の支援
- 学生・教職員の教育・研究活動支援
- 医学科創立四十周年・看護学科創立二十五周年記念式典の開催と記念誌の発刊
- その他目的に沿う事業

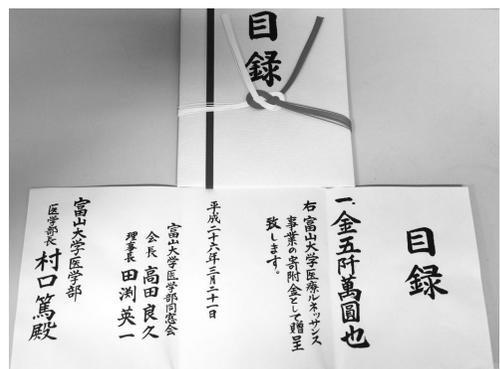
＜寄附金贈呈式＞

平成26年3月21日(金)13:00に富山大学杉谷キャンパス旧学長室にて、本富山大学医学部同窓会より、富山大学医療ルネッサンス事業への寄附金5,000万円の贈呈式が執り行われました。

贈呈式では、村口篤医学部長宛の寄附金の目録が、田淵英一医学部同窓会前理事長より、村口篤医学部長と塚田一博附属病院長に手渡されました。



左から、田淵英一医学部同窓会前理事長、
村口篤医学部長、塚田一博附属病院長



目録

田淵英一医学部同窓会前理事長より、「この寄附金は、医学部同窓会の会員からいただいた会費を30年間かけて貯めた大切なお金であり、有効にご活用いただきたい。」という旨が伝えられました。

村口篤医学部長からは、「近年の日本政府の財政的困窮から、文部科学省からの全面的支援が得られないばかりか、毎年、補助金を削減されている今日、医学部同窓会より、このような多額の寄附金をいただき、大変感謝しております。この寄附金は、富山大学の新棟建設や教育の充実に当てさせていただき、大切に使用させていただきます。」という返事をいただきました。

＜感謝状贈呈式＞

平成26年12月16日(火)14:30より、富山大学医療ルネッサンス事業により新設された総合研究棟(医学薬学系)多目的ホールにて、その完成記念式典・講演会が執り行われました。

式典では、文部科学省高等教育局医学教育課課長の代理として島居剛志課長補佐、富山県知事代理として山崎康至厚生部長、田淵英一医学部同窓会会長が来賓として出席され、開式の辞、村口篤医学部長式辞、遠藤俊郎富山大学長挨拶、来賓祝辞の後に、多額の寄附をいただいた団体・個人への感謝状が手渡されました。

感謝状贈呈式では、富山大学医学部より感謝の気持ちとして、日医工(株)、富山大学医学部後援会、富山大学医学部同窓会へ感謝状が贈られました。



◀総合研究棟(医学薬学系)完成記念式典・講演会
開催場所の多目的ホールは、日医工(株)からの寄附を基につくられ、「日医工オーデトリウム」という名称がつけられました。

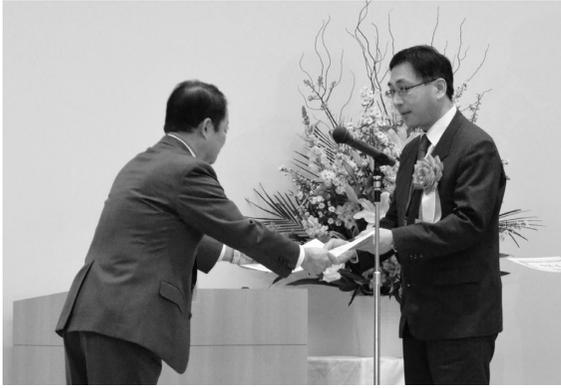


村口篤医学部長による式辞

左より、村口篤医学部長、島居剛志文部科学省高等教育局医学教育課課長補佐、山崎康至富山県厚生部長、田淵英一会長



田淵英一会長による来賓挨拶



◀感謝状贈呈式にて、村口篤医学部長より田淵英一会長が感謝状を受け取った。

富山大学医学部より、富山大▶
学医学部同窓会からの寄附に
対する感謝状をいただきました。



ご寄附への感謝の言葉

富山大学医学部同窓会 殿

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

また日頃より、本学医学部・附属病院の教育・研究及び医療活動に対するご理解とご支援をいただき感謝申し上げます。

この度は、富山大学医療ルネッサンス事業のためにご寄附をいただき、誠にありがとうございます。ご寄附の趣旨に十分に配慮し、教育・研究環境の整備、在校生及び同窓生の活発な交流と、国際化に向けての支援体制の構築に資する所存でございます。

また、附属病院におきましては、先端医療や臨床機能の強化、地域医療の拠点として医療人の確保に努めます。

今後とも、富山大学医学部・附属病院への一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

簡単ではございますが、書中をもちまして、御礼のご挨拶に代えさせていただきます。

富山大学医学部長 村口 篤

杉谷キャンパス内建設施設の内容と計画

副医学部長 再生医学講座 二階堂 敏雄

医学部ではこの5年間で定員が15名増え、年次進行で90名の増加になります。しかしながら施設はいっこうに増えませんでした。また寄付講座の増加、企業と連携をはかるためのインキュベーション事業等のための施設が必要になってきました。

そこで5年ほど前から施設の増築を文科省に申請していました。しかし一部局での申請ではなかなか難しいということで、杉谷の全学部からの申請という形にまとめ、平成24年の補正予算で申請が通りました。新施設の名称は「医薬イノベーションセンター」です。

医薬イノベーションセンターの広さは、6,715平米で5階建てです。1階はオーデトリウムと産学連携のためのインキュベーションスペースです。杉谷キャンパスの学生を一学年全員一度に収容できるように、320席で設計しました。2階は学生のチュートリアルやオスキーをするためのスペースと、医学系の研究スペースです。3階及び4階も医学系の研究スペースで、5階は薬学と和漢研の研究スペースです。その他、全学施設であるので、医薬理工連携した生命融合教育部のスペース、また若手育成のためにテニユアー教員のためのスペースを確保しております。

1階のオーデトリウムは、一般の授業、講演のほか、小さなシンポジウム又は演奏会が出来るようになっています。そのために比較的疲れのないような椅子をと考えておりましたところ、幸いにも日医工様のご支援を頂き「日医工オーデトリウム」として完成する運びとなりました。

医薬イノベーションセンター以外に、現在図書館の改修、福利施設の改修(災害対策プラザ新営)、立体駐車場の新設、講義実習棟の改修、医学系の総合研究棟の改修、附属病院中診・外来棟の改修が行われています。

医薬イノベーションセンターならびにキャンパス全体の完成図をP13～15に掲載します。